

重点プロジェクト計画概要一覧表（中国四国ブロック）（令和2年度）

| 都道府県名 | 番号 | 計画名                                     | 計画期間     | 分野<br>(複数可)    | 活動計画の要約  | 連携機関<br>(役割分担)  | 活用事業 |
|-------|----|---|----------|----------------|--|---|------|
| 鳥取県   | 1  | 1 水稲主食用品種「星空舞」の実態把握と品質収量の高位安定化のための解析    | R1 ~ R2  | 作物             | ・長年早生熟期の品質向上が求められており、その期待を受けて、平成30年度に「星空舞」が奨励品種に採用された。「星空舞」は「コシヒカリ」と「きぬむすめ」の中間熟期であり、高温登熟耐性に優れ、品質、収量は「コシヒカリ」と同等以上であった。しかし、緩効性基肥施肥の適応性や一部で生育旺盛になったことによる食味低下事例が見られ、今後の産地拡大の上で懸念材料となっている。<br>・県内全域で、①標高別適応性②緩効性基肥適応性③穂肥Ⅰ及びⅡ時の葉色診断による施肥量調節を行い、「星空舞」の実態を明らかにし、県内に波及可能な標高適応性などの栽培技術を検討する。   | 全農ととり、県下のJ A、鳥取県産米改良協会、鳥取県農業試験場、各農業改良普及所<br>全県および各J Aごとに担当J A指導員、普及指導員、農業試験場研究員、県産振興課、農業革新支援専門員などが中心となったプロジェクトチームを結成し、実証ほ設置、研修会開催等により技術向上を図る。 |      |
| 島根県   | 2  | 有機栽培技術の確立・普及                            | R2 ~ R6  | 持続可能な農業<br>稲作  | ○県では、「有機農業推進計画」に基づき有機農業を推進している。<br>○有機水稲では、安定した除草効果が期待できる機械除草による栽培技術を確立した。当技術を現地実証し、普及しつつあるところである。<br>○一方、生産者個人では販路拡大が限界を迎えており、販路が無く有機J A S 認証面積が伸び悩んでいる。そこで実需者とのマッチングを図り、販路開拓支援を行い面積の拡大を図る。   | 試験研究機関で開発された技術を現地実証しながら販路対策を図る。また、県庁産地支援課を通じ実需者と連携し販路を確保する。   |      |
| 島根県   | 3  | 米の多収穫技術の確立による生産コスト低減                    | R2 ~ R6  | 稲作             | ○主食用米生産のあたっては、高品質・良食味の生産を行うことで県産米のブランド化に努めてきた。<br>○一方で新技術の導入やコスト低減の意識が十分認知されておらず低コスト生産がされていない状況である。<br>○そこで、中・外食等業務用需要が堅調である「きぬむすめ」「つきあかり」の実証担当農家を対象に、面積当たりの収量の向上による販売量当たりの生産コスト低減に取り組む。   | 試験研究で開発された技術を現地実証しながら販路対策も含めてJ A と連携を図る。  |      |
| 島根県   | 4  | 県推進品目（たまねぎ）の生産性向上と省力化対策                 | R2 ~ R6  | 野菜             | ○たまねぎは県推進品目に選定され、全県的に生産拡大を図っている。<br>○全国平均並の平均反収向上。<br>○大規模栽培向けの機械化一貫体系、機械化に即した栽培技術確立。<br>○その対策として現場タイプアップ試験（政策推進型研究）と連携し、たまねぎ大規模栽培技術確立を行い、モデルとなる大規模経営体を育成し、県内での大規模経営体の育成や単収向上につなげる。  | 試験研究で開発された技術を現地実証しながら販路対策も含めてJ A と連携を図る。  |      |
| 島根県   | 5  | 素牛の能力を活かす肥育技術の実証・普及                     | R2 ~ R6  | 畜産             | ○子牛価格は10年前より上昇に転じているが全国平均に比べて低く推移し購買者（肥育農家）が求めている発育良好な子牛育成に至っていない。<br>○子牛市場成績を分析した結果、出荷目標に達成していない個体が5割存在することが分かった。<br>○そこで、子牛評価の高い先進農家と課題のある農家の飼養状況を調査し、飼養管理のための事例集を作成し価格向上が想定される飼養管理上の改善ポイントを明確にする。<br>○併せて、斉一性のある子牛飼育マニュアル実証についてモデル対象に集約的子牛管理の検証を行うとともに、各普及部で実証を行うことで早期に全県への普及を図る。 | 市町村、J A とともに飼料生産から供給に係る畜産農家と耕種農家の連絡調整体制を構築する  |      |
| 岡山県   | 6  | アスパラガス追加立茎による春芽増収を目指した栽培方法の確立           | R1 ~ R3  | 野菜             | 斑点性病害等による早期枯れ上がりの影響で、春芽の収量が減少している。そこで、R元年度に追加立茎したほ場の春芽収量を調査し、効果を明らかにする。また、また、新たに、R2年度実証で立茎本数を変え、茎葉の組み合わせの緩和を図る追加立茎栽培を行い、その有望性を明らかにする。  | 普及指導センター担当者としてプロジェクトチームを組み、栽培方法の確立を図る。  |      |
| 岡山県   | 7  | 地下水位制御システム（FOEAS）による露地野菜の適正な地下水位管理方法の確立 | R1 ~ R2  | 普通畑作物<br>野菜    | FOEAS導入ほ場での地下水位制御が、土壌物理性並びに露地野菜の生育・収量に及ぼす影響を調査し、技術導入によるメリットを明らかにするとともに、効果的な地下水位制御方法を検討する。R元年度に引き続き、たまねぎ、白ねぎ等で実証する。   | 普及指導センター担当者としてプロジェクトチームを組み、適正な地下水位管理方法を確立する。  |      |
| 岡山県   | 8  | 産地・普及指導員の技術伝承に資する動画資料等の整備               | R2 ~ R4  | 果樹<br>野菜<br>花き | H30から取り組んだ学習支援システムで、作成したも、ぶどうでは、システムの充実・活用を図る。また、産地内や普及指導員間での効果的な技術伝承を行うため、口頭や紙の資料では伝達しにくい生産技術の動画資料を他の品目で作成する。   | 普及指導センター担当者としてプロジェクトチームを組み、栽培技術の動画資料を作成する。  |      |
| 広島県   | 9  | 大規模レモン栽培モデル経営体の育成                       | H30 ~ R2 | 果樹             | ・広島県では「レモン22億円産地計画」のもと、水田や遊休農地を活用したレモン団地を整備し、実需者ニーズに応える生産体制を確立することで、需要が高まっている広島県産レモンの供給拡大を目指している。<br>・大崎上島町において、B法人は、大規模レモン専作経営を目指し、H29年2月に設立された。H30年春に定植した園地のうち1.0haは水田に客土して栽培をしている。早期成園化を支援し、大規模省力栽培の経営モデルとする。   | J A 広島県実連<br>J A 関係町<br>実需者（加工業者）<br>普及組織は農業革新支援担当と西部農業技術指導所とが連携して普及活動を展開。特に、早期成園化に向けた作業進捗管理と、モデルほ場での単収4 t 取りの実証を支援する。                        |      |

|     |    |   |          |             |   |   |  |
|-----|----|---|----------|-------------|---|---|--|
| 広島県 | 10 | ナシ低樹高ジョイント栽培を核とした大規模ナシ経営体の再興              | R1 ~ R3  | 果樹          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世羅町では、ナシの大規模法人経営が行われて、55年以上が経過し、一部の圃場では高樹齢化に伴う生産性の低下がみられている。</li> <li>・生産性が低下した圃場では、剪定方法の改善などの樹勢回復のほか、補植が行われている。これらを支援し、収益性の改善に取り組む。</li> <li>・大規模改植圃場では、ナシJVトレリス仕立てに取り組み、試験研究機関との連携活動及びモデル樹育成支援を行う。これにより樹形の斉一性を確保し、早期成園化を実現する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>JA広島果実連</li> <li>JA関係町農園</li> <li>普及組織は農業革新支援担当と東部農業技術指導所とが連携して普及活動を展開。ナシJVトレリス仕立て栽培の新植により生産性の向上を支援する。</li> </ul>  |  |
| 山口県 | 11 | 水田農業でのスマート農業技術の導入に関する課題整理                 | R2       | 稲作<br>普通畑作物 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○担い手の減少、高齢化が進む中、中核経営体での効率的な営農の維持発展を図るため、スマート農機の導入や利活用を進める必要がある</li> <li>○そこで、経営体の様々な課題等に対応するため、導入済の経営体の利用実態とともに、導入を志向する経営体での試用効果等を調査する</li> <li>○これらを通じ、スマート農機を導入する際の得失や運用上の留意点等について課題整理を行う。</li> </ul> <p>【目標】<br/>「スマート農業推進の手引き」の充実</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入済みの経営体調査の主体は、農林水産事務所（普及指導センター）</li> <li>・農機の試用及び効果確認は、経営体及びメーカーと連携</li> <li>・新技術情報や研究成果は、当センター農業技術部（農業試験場）</li> <li>・導入条件や運用整理は当室</li> <li>・手引きの改定は、県庁担当課で実施</li> </ul> | スマート農業実装加速化事業（単県）                        |
| 山口県 | 12 | 麦類の品質向上対策                                 | R2 ~ R3  | 普通畑作物       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○麦類生産は中核経営体の重要な収入源であり、生産拡大傾向にあるが、近年、過剰供給傾向のため販売量確保が重要である</li> <li>○そこで、実需者が求める品質の麦を安定的に生産するための資材選定や実証を展開する</li> <li>○これらを通じ、麦種ごとに品質を高安定化させる栽培管理方法を普及する</li> </ul> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦：子実たんばく含有率（12%以上）</li> <li>・裸麦：硝子率の低下（50%以下）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証ほの設置は農林水産事務所</li> <li>・品質評価については、製粉業者等の実需者と連携</li> <li>・調査結果の解析と研究情報は、農業技術部</li> <li>・連携先との調整は、県庁担当課</li> </ul>   |  |
| 山口県 | 13 | 「マナネ」・「キャベツ」等露地野菜におけるGPS車速運動軌内施肥機の「マナネ」実証 | R2 ~ R3  | 野菜          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○露地野菜は法人等の中核経営体における作業分散や収益力向上に向け、経営の複合化で作付拡大している中、構成員の高齢化も進み、一層の省力・低コスト化が重要である</li> <li>○また、業務用への契約出荷の拡大に向け、求められる品質確保と均質化に取り組む経営安定を図ることが必要である</li> <li>○そこで、GPSによる車速運動軌分散可能な施肥機を活用する際の生育の斉一化や作業負担の軽減を図る「マナネ」実証ほを設置する</li> <li>○これらを通じ、作業改善等の経営評価を行うとともに、新たな機械の理解促進と技術指導力の向上を促進する</li> </ul> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スマート農業推進の手引き」の充実</li> <li>・県内産地への機械導入（8台程度）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証ほの設置・運営は農林水産事務所</li> <li>・技術課題の整理、検討会設置等は当室</li> <li>・産地へのPR、評価等は、各作物の生産出荷協議会</li> </ul>  | スマート農業実装加速化事業（単県）<br>新しい野菜産地づくり支援事業（国庫）  |
| 山口県 | 14 | やまぐちオリジナルリンドウ「西京シリーズ」の生産拡大                | H30 ~ R3 | 花き          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○山口県では極早生のリンドウ「西京の初夏」を始め、「西京の涼風」「西京の夏空」とオリジナルリンドウを育成している。従来品種と比較して、西南暖地である本県においても株の残存率が高く、本県全域の水田転作物として期待されている。</li> <li>○このため、花き経営における安定的な所得確保を図るため、高温耐性の特徴を持つリンドウの産地の拡大に取り組む、迅速な普及拡大を目指す。</li> <li>○県内の花き市場と連携し、シリーズの特徴である国内で最も早い出荷時期を活かした販売方法と品質向上策を検討し、情報交換会を通して実需者への利用推進を図る。</li> </ul> <p>【目標】<br/>「西京シリーズ」の栽培面積5haを目標（R4）</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・花き市場と連携し、シリーズの特徴である販売時期を活かした出荷規格を検討し、情報交換会を通して実需者への利用推進を図る。</li> </ul>  | 園芸・薬用作物生産転換促進事業（単県、一部国庫）                 |
| 徳島県 | 15 | 集落営農の推進                                   | R2 ~ R4  | 経営          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の現状と課題</li> <li>・「集落営農」は農村の高齢化・担い手不足が深刻化する中、地域の農地・農業を維持・発展させるため地域内の農業者等が話し合いを行い、みんなで効率良く農業を行うために設立する組織であり、本県農業の重要な担い手として位置づけられている。</li> <li>・本県の集落営農組織はその多くが作業委託中心の脆弱な任意組織である。</li> <li>・近年、法人や共同販売経理を行う組織等、今後各園域のモデルとなり得る組織の設立があるが、これら組織の多くも、米価下落、役員・従事者の高齢化、後継者不足、労務管理や経理の不備等多くの共通問題を抱えている。今後、本県の将来モデルとなり得る新規組織の設立を推進するとともに、既存組織の経営改善・安定化に向けた取り組みを支援する必要がある。</li> <li>○目標を達成するための活動方法</li> <li>・集落営農モデル組織の設立を推進するとともに、既存組織の経営改善・安定化に向けた運営の支援を行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域農業支援センター、市町村、JA、農業会議等</li> <li>○役割分担</li> <li>市町村が各種施策・事業の総合窓口、地域農業支援センター・市町村が現場調整、JA・農業会議は設立支援を担う。</li> </ul>  |  |
| 徳島県 | 16 | 徳島型水田農業の推進                                | R2 ~ R4  | 稲作          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の現状と課題</li> <li>・本県の稲作は水田面積の6割、農業粗生産額の1割を占め、農業経営の中核としてはもちろん、農地の維持管理や、ブランド化された園芸品目の裏作としても大きな役割を持っている。</li> <li>・農業者の高齢化、担い手の育成、集落営農等の育成等の対策を行い、業務加工用米・酒米・飼料用米等の新規需要米への転換を継続することが重要となっているとともに、現場からは夏季の高温の影響による品質低下（白未熟粒、カメシ被害）に対する技術対策が強く要望されている。</li> <li>○目標を達成するための活動方法</li> <li>水稲の高品質生産を図るため、あきさかりに加え、早生種と晩生種の高温耐性品種の導入等、高温障害を軽減する品種構成について検討する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域農業支援センター、JA全農とくしま、農事組合法人</li> <li>○役割分担</li> <li>農業支援センターと農事組合法人は現地実証展示を実施し、JA全農とくしまは基肥一発肥料を開発し、高度技術支援課は統括ととりまとめを行う。</li> </ul>   | 協同農業改良普及事業交付金<br>「競争に打ち勝つ！徳島新たな米づくり展開事業」 |

|     |    |                     |         |       |   |   |                                |
|-----|----|---------------------|---------|-------|---|---|--------------------------------|
| 徳島県 | 17 | 田畑を活用した耕畜連携の推進      | R2 ~ R4 | 畜産    | <p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産農家では、経費コストの大半を占める飼料費の節減を図るため、たい肥と稲わらを交換するなど資源循環型農業が行われてきた。</li> <li>・近年は、水稲を飼料として利用するイネWCSなどの自給飼料生産に取り組み、穀物相場に左右されない安定した経営を目指している。</li> <li>・しかし、自給飼料生産は、高価な作業機械を共同で利用するため、天候により作業が競合すること、耕種農家の作付計画から作期は夏場に制限されるなど、計画的に作業を行うことが課題である。</li> </ul> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜産研究課で研究されている自給飼料生産技術等を活用し、飼料作物の安定生産を支援するとともに、飼料作物による緑肥利用の効果検証を行うことで、省力的かつ安定的に耕畜連携できる体制の確立を支援する。</li> </ul>  | <p>○畜産研究課、畜産協会、専門農協、コントラクト組合等</p> <p>○役割分担</p> <p>畜産研究課は省力化技術の研究、高度技術支援課、地域の農業支援センターが現場の調整、高度技術支援課は研究、普及等関係機関との連携を担う。なお、JA等には必要に応じた支援を担う。</p>   | 協同農業改良普及事業交付金                  |
| 徳島県 | 18 | 6次産業化の推進            | R2 ~ R4 | 6次産業化 | <p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度に「6次産業化研究施設」が開設され、実践的な研修会が開催できるようになった。さらに当該施設は、オープンラボ機能を有し、農業者等がアイデアを研究・試作できる場となっており、自家農産物の有効活用のため農業者個人や加工グループ等が利用している。</li> <li>・JAや市町村においても6次産業化を推進しており、加工施設や農産物直売所を整備している。</li> </ul> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合研修と個別指導を合わせた体系的な支援を行うとともに、地域農業支援センター等関係機関と連携し、産地を巻き込んだ地域資源の商品化等6次産業化を推進する。</li> </ul>  | <p>○地域農業支援センター、もうかるブランド推進課輸出・六次化推進室、JA</p> <p>○役割分担</p> <p>地域農業支援センターが現場調整・指導、輸出・六次化推進室が施策等情報提供、JAが現場指導</p>   | 食料産業・6次産業化交付金<br>協同農業改良普及事業交付金 |
| 徳島県 | 19 | 広域的構造改革による園芸産地の生産振興 | R2 ~ R4 | 稲作、野菜 | <p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の高齢化や後継者不足、異常気象や自然災害による農作物被害、病害虫被害の多発、販売価格の低迷、農業資材費の高騰等により、野菜産地の脆弱化が進んでおり、産地の維持や活性化のためには、産地の構造改革や広域的な連携が必要となっている。</li> <li>・本県農業の特徴である水稲-野菜作付体系では、土壌・施肥管理が異なることから、水稲、野菜ともに品質が安定しない。</li> <li>・れんこんでは腐敗病による減収が課題で生産量は減少傾向にあり、対策として太陽熱消毒が行われているが、多大な労力を要することから実施面積は少ない。</li> </ul> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年生産量の減少が著しい主要な品目について、将来広域的な連携につながる産地の構造改革を行い、生産量の拡大や担い手の確保を図る。</li> <li>・水稲-野菜作付体系では総合的な土壌営農対策の導入支援を行う</li> <li>・れんこんでは、簡易な水封式土壌還元消毒の普及を図り、土壌病害対策の実施面積が増えることにより、生産回復を図る。</li> </ul>                            | <p>○地域農業支援センター、JA、JA全農とくしま、もうかるブランド推進課、とくしまブランド推進機構、資源環境研究課、農産園芸研究課</p> <p>○関係機関との役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地の構造改革、広域連携</li> <li>・高度技術支援課は推進計画等の作成、地域農業支援センターは産地の課題等の取りまとめ、とくしまブランド推進機構は施設園芸団地構想の推進</li> <li>・水稲-野菜作付体系での野菜の生産安定</li> <li>・高度技術支援課は対策技術の周知等。JAは生産者等との連携、資源環境研究課は土壌診断等。</li> <li>・れんこんの生産安定</li> <li>・高度技術支援課は関係機関との連絡調整、地域支援センターは各産地のJA・生産者等との連絡調整、各JAは生産者等との調整、農産園芸研究課は酸化還元電位の調査等、資源環境研究課は病原菌密度等の調査</li> </ul> | 協同農業改良普及事業交付金                  |
| 徳島県 | 20 | 果樹産地の振興に向けた課題解決支援   | R2 ~ R4 | 果樹    | <p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、県下のカンキョウ産地は、夏秋期の異常高温や長雨等の異常気象の影響を受けて、生産性が低下している。冷蔵スタチにおいては、卸売市場の関係者から早期の黄変果や腐敗果の発生軽減への対策が求められており、温州ミカンにおいては、生産現場から浮き皮軽減対策が求められている。</li> <li>・近年、県内のナン産地では、発芽の遅れがみられてきている。症状が著しい場合には結実しないため、生産不安定の原因となっている。</li> </ul> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冷蔵スタチについては、県が新たに育成した品種導入と新たな貯蔵方法の現地検討に取り組む。</li> <li>・温州ミカンについて、県育成品種である「晩生」十萬温州の現地適応性を検討する。また、県が新たに育成した中晩柑の現地適応性も検討する。</li> <li>・ナンについて、発芽不良の発生軽減技術の導入を支援し生産の安定化を図る。また、早期成園化が可能な省力軽労働型技術の「ジョイント仕立て法」の定着を支援することで、改植後の早期収益確保ができるモデル農家を育成し、その取組みを通して産地の維持・強化を目指す。</li> </ul> | <p>○地域農業支援センター、農産園芸研究課、資源環境研究課、もうかるブランド推進課、JA全農とくしま、JA</p> <p>○役割分担</p> <p>もうかるブランド推進課が事業支援、農産園芸研究課・資源環境研究課・JA全農とくしまの技術指導、地域農業支援センター、JAが窓口を担う。</p>  | とくしまブランド産地リノベーション事業            |
| 徳島県 | 21 | 花き産地（洋ラン）の振興支援      | R2 ~ R4 | 花き    | <p>○地域の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洋ランは徳島県の花き生産額の約40%を占める重要品目であるが、苗の導入から開花まで3年程度の長期間を要することに加え、ハウス加温や山上げ作業などの経費や労力負担が大きいため、近年の市場価格低迷により厳しい経営を迫られている。</li> <li>・特にシンビジウムでは山上げによる暑熱対策や冬期の高夜温管理を行い、需要が多く高単価が期待できる年末に出荷しているが、地球温暖化による夏期の高温や秋冬期の寡日照等の天候不順によって株の充実が遅れ採花数が不安定となることが問題となっており、効果的な暑熱対策やハウス内環境制御など周年を通じた栽培管理技術の対策が必要となりつつある。</li> </ul> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期の暑熱対策、ハウス内の総合的な環境制御についての普及性を検討するとともに、生産者組織による産地活性化の取り組みを支援する。</li> </ul>  | <p>○地域農業支援センター、農産園芸研究課、もうかるブランド推進課、JA全農とくしま、JA、種苗会社</p> <p>○役割分担</p> <p>地域農業支援センター、JA全農とくしま、JA：現場調整<br/>もうかるブランド推進課：施策・事業窓口<br/>農産園芸研究課、種苗会社：技術検証</p>   | 協同農業改良普及事業交付金                  |

|     |    |                                     |          |         |  |  |                           |
|-----|----|-------------------------------------|----------|---------|--|--|---------------------------|
| 徳島県 | 22 | 新たな技術を導入した安全安心な農産物の安定生産に向けたIPMの普及支援 |          | 持続可能な農業 | <p>○地域の現状と課題</p> <p>徳島県の園芸作物において、薬剤抵抗性のハダニ類、コナジラミ類等の発生が問題となっており、その防除には多大な労力を要している。全国的にもこれら微小害虫の薬剤抵抗性が発達し、効果のある薬剤がなくなり防除に苦しんでいることから、土着天敵や天敵資材を活用したIPMの取り組みが普及・定着しつつある。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>ハダニ類、コナジラミ類等を総合的に管理する土着天敵や天敵資材の効果的な利用技術を開発機関と連携し、本県の生産現場への普及を支援する。これにより、過度の農業使用を防ぐことで薬剤抵抗性の発達を抑制し、防除作業の労力軽減を図るとともに、安全安心かつ持続的で安定的な農業生産の実現を図る。</p>   | <p>○地域農業支援センター、JA全農、JA全農とくしま、関係JA、農業メーカー、資源環境研究課、もうかるブランド推進課</p> <p>○関係機関との役割</p> <p>JA全農、農業メーカーは、関係者に天敵資材に関する全国における取組情報を提供、資源環境研究課は試験研究データを提供、展示は運営に関してアドバイス、JA全農とくしまは、各JAに情報提供、地域農業支援センター、関係JAは、生産者へ技術指導、もうかるブランド推進課は補助事業等を支援、高度技術支援課は展示圃の設置、講習会、研修会の開催、関係者の連携を調整。</p> |                           |
| 徳島県 | 23 | 国際水準GAPの取組および認証取得に対する支援             | R2 ~ R4  | 持続可能な農業 | <p>○地域の現状と課題</p> <p>・GAP認証は2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおける食材調達基準とされるなど農業の持続可能性を確保する取組として近年認知度が高まっており、HACCPの取組義務化などにより今後実需者から生産者へのGAP認証取得の要求が高まっていくことが考えられる。</p> <p>・国際水準GAP認証(JGAP、ASIA GAP、Global G.A.P)は、本県では現在14件が取得している。</p> <p>・国際水準GAPの認証取得に際しては倉庫や集出荷場の整備や書類整備など農場全体にわたる体制の見直しや、栽培から出荷、雇用管理等におけるリスク評価が必要となるなど、生産者にとって取り組みが難しい点もあり、認証取得の妨げとなっている。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>地域の農業支援センターと連携し、国際水準GAPについて生産者の認知度を高めるとともに認証取得に向けた支援を行い、取り組む生産者数を増加させる。</p>   | <p>○地域農業支援センター、JA全農とくしま、JA、もうかるブランド推進課</p> <p>○役割分担</p> <p>地域農業支援センター、JA全農とくしま、JA：現場調整<br/>もうかるブランド推進課：施策・事業窓口</p>   |                           |
| 徳島県 | 24 | スマート農業技術の導入支援                       | R2 ~ R4  | スマート農業  | <p>○地域の現状と課題</p> <p>・本県のれんこん産地では、規模の小さな経営体が減少し、その農地を農業法人等の大規模経営体や、後継者のいる経営体等が借受けて規模拡大し、産地が維持されており、1経営体あたりの耕作面積の拡大や担い手の高齢化等により、ほ場管理の効率化や作業の省力化が課題となっている。</p> <p>○目標を達成するための活動方法</p> <p>・スマート農業技術の導入を支援し、省力化や生産性の向上を図る。</p>  | <p>○地域農業支援センター、農産園芸研究課、JA、西日本農研、農機メーカー</p> <p>○関係機関との役割</p> <p>高度技術支援課は事業の実証代表機関である農産園芸研究課と連携し、実証農家の設置、実証技術の調査等を行う。地域支援センターはJA・生産者等との連携を図る。西日本農研はスマート農業技術の経営評価等を行う。</p>  | スマート農業総合推進対策事業            |
| 香川県 | 25 | 小麦「さぬきの夢2009」の高品質安定多収栽培体系の確立        | H28 ~ R2 | 普通畑作物   | <p>小麦「さぬきの夢2009」は実需者からの評価が高く、国内で最も高い価格で取引されているが、生産量が4,760tにとどまっており、需要量を確保するためには作付面積の拡大とともに単収の向上が必要である。</p> <p>しかし、近年は収量が低下傾向にあり、この原因として、湿害の発生、土壌の理化学的劣化による生育障害、播種適期の降雨や規模拡大に伴う播種期の遅延等があげられ、収量低下要因の解明と安定多収生産技術の確立が緊急の課題である。</p> <p>収量低下要因を解明し、高品質安定多収栽培体系を確立することにより、小麦「さぬきの夢」の単収向上を図り、麦作農家の所得向上と実需者ニーズに見合った高品質麦の生産量を確保する。</p> <p>目標：小麦「さぬきの夢」の生産量 7,000ha（令和2年度）</p> <p>計画概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多収阻害要因の実態調査と阻害指標の開発</li> <li>・播種期別の高品質多収栽培技術の確立</li> <li>・逆転畦土耕等湿害に強い栽培技術体系の確立</li> <li>・播種前排水対策の検討</li> </ul> | <p>・県農業試験場</p> <p>・県農業生産流通課</p> <p>・県農業改良普及センター</p> <p>・農研機構西日本農業研究センター（多収阻害要因）</p> <p>・肥料メーカー（肥効調節型肥料の改良）</p> <p>・農機メーカー（アップカットロータリの改良）</p>   | (県)「さぬきの夢」生産拡大事業          |
| 香川県 | 26 | 露地野菜品目におけるスマート農業技術の確立と実証            | R1 ~ R2  | 野菜      | <p>スマートの農業技術の発展は急速で、農業の農村の担い手労働不足を解消・緩和する技術として注目されている。</p> <p>しかしながら、露地野菜品目においては、北海道などの大規模畑作栽培で栽培されている野菜に限定され、狭小な圃場や複雑な作業体系である西南暖地の野菜栽培で実用化されたものは、殆どない。</p> <p>そのような中、国は全国でスマート農業体系の確立を目指し、重点的な取り組みを行っている。</p> <p>本県では、スマート農業技術の開発・実証プロジェクトにおいて、都市近郊で加工業務用葉ネギ栽培に取り組む大規模野菜経営体のスマート農業化に取り組むこととなった。</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動直進操舵補助システムを用いた、施肥軌立てマルチ同時作業を行うことにより同作業時間の縮減</li> <li>・刈取りタイプの葉ネギ収穫機利用による収穫作業時間の縮減</li> <li>・画像処理により葉ネギの生育診断とドローンによる追肥作業</li> <li>・計画出荷支援システムの検証、高精度化</li> </ul>              | <p>・農業経営課</p> <p>・県農業試験場</p> <p>・中讃農業改良普及センター</p> <p>・農業生産流通課</p> <p>・JA香川県</p> <p>・民間企業</p>   | (国)スマート農業技術の開発・実証プロジェクト事業 |

|     |    |                                  |          |    |   |  |                           |
|-----|----|----------------------------------|----------|----|---|--|---------------------------|
| 香川県 | 27 | ICTを活用したイチゴ生産技術支援システムの構築         | H28 ~ R2 | 野菜 | <p>本県のイチゴは、独自の「養液栽培システム（らくちん栽培）」を中心とする高設式養液栽培の普及により、作業負担の軽減が図られるとともに、高品質安定生産に取り組むことで消費者や市場からも高い評価を受けている。近年、のれん分けによる新規就農や規模拡大する生産者も出てきている。</p> <p>今後、本県のイチゴ生産を持続発展させるためには、収益性の向上とともに、農業を担う人材を確保・育成する必要がある。そのためには、優良生産者の高度な生産技術のノウハウを次世代に伝承すると共に、生産者相互が情報交換することで技術水準を高める取り組みが求められており、ICTを活用した生産技術支援システムの開発と実証を行い、同システムの構築を図る。</p> <p>目標：ICTを活用したイチゴ生産指導支援システム構築と現場指導活動への活用</p> <p>令和2年度計画<br/>1. システム普及に向けた取組<br/>1) データ活用実戦に向けた生産者学習会の開催<br/>2) 普及に向けた栽培マニュアルの作成</p>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営課</li> <li>・県農業試験場</li> <li>・中讃農業改良普及センター</li> <li>・農業生産流通課</li> <li>・JA香川県</li> <li>・民間企業</li> </ul>  | (国) 情報活用農業推進事業(地方創生推進交付金) |
| 香川県 | 28 | 「シャインマスカット」の加温栽培における高品質安定生産技術の開発 | R2 ~ R4  | 果樹 | <p>本県の「シャインマスカット」は無加温栽培が中心であるが、全国的な栽培面積拡大により単価の下落が見込まれるため、価格が安定している加温栽培への移行が急務となっている。しかし、加温栽培は糖度上昇停滞や生理障害の多発による品質低下が問題となっており、現場への導入は進んでいない。</p> <p>このため、加温栽培における糖度上昇のための最適な管理方法や生理障害の発生メカニズムを明らかにし、高品質果実を連年安定生産できる技術が必要となっている。</p> <p>そこで、ハウスの内環境制御などの手法やICTを活用した生育・環境データの蓄積・解析などにより生理障害の発生メカニズムを明らかにするとともに、温度を始めとする環境制御や水分管理などの栽培技術を改善することにより、生理障害の発生を抑制し、安定生産が可能な生産技術を開発する。</p> <p>目標項目：加温栽培面積の拡大</p> <p>活動計画<br/>1. 生育・環境データの蓄積・解析<br/>2. 生理障害発生時の環境条件の究明<br/>3. 現地実態調査<br/>4. 環境制御技術の検討</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県農業経営課</li> <li>・県農業試験場府中果樹研究所</li> <li>・各農業改良普及センター</li> <li>・県農業生産流通課</li> </ul>   | (県) 香川県芸産地活性化総合対策事業       |
| 香川県 | 29 | 県オリジナル品種の作付推進に向けた支援              | H28 ~ R2 | 花き | <p>カーネーションおよびランキュラスは香川県の主要花きであり、他産地との差別化による優位販売を行う上で、県オリジナル品種を中心とした生産拡大やブランド化に向けた販売支援が求められている。</p> <p>そこで、県オリジナル品種である「てまり」シリーズおよび「ミニティアラ」シリーズを中心に、安定生産や生産性向上に向けた栽培技術を確立し、生産者の収益性向上を図り、生産拡大につなげる。</p> <p>目標：県オリジナル品種の作付面積拡大</p> <p>活動計画<br/>ランキュラス<br/>1. 県オリジナル品種の開発と特性調査支援<br/>2. 生産性向上に向けた支援<br/>3. 販売促進やブランド化に向けた支援<br/>カーネーション<br/>1. 生産性向上に向けた支援<br/>2. 販売促進やブランド化に向けた支援</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県農業試験場</li> <li>・県農業生産流通課</li> <li>・県農業改良普及センター</li> <li>・香川県農業協同組合</li> </ul>   | (県) かがわ花き産業振興事業           |
| 香川県 | 30 | スマート農業導入による経営効果の検討               | H28 ~ R2 | 経営 | <p>農業従事者の減少、高齢化に対応し、産地の維持・発展を図るためには、省力的かつ効率的な農業生産の実現や新規就農者等への技術継承による経営の早期確立が喫緊の課題となっている。国においては、ロボット、AI、IoT等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を推進している。スマート農業技術の活用には大きな期待が寄せられており、今後、本県においても導入への需要や関心は高まると考えられる。</p> <p>そこで、スマート農業の活用による農業生産及び経営の効率化等について検討し、農業者の目標達成や産地間競争に打ち勝つ強い担い手の育成を図る。</p> <p>目標：スマート農業を活用した総合的な生産指導支援システム構築と現場指導活動への活用</p> <p>計画概要<br/>1. スマート農業に関する知識・技術の習得<br/>2. スマート農業（農業ICTシステム）の現地実証<br/>3. 生産者、関係機関の意向把握</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営課</li> <li>・県農業試験場</li> <li>・県農業改良普及センター</li> </ul>  | (国) 情報活用農業推進事業(地方創生推進交付金) |
| 香川県 | 31 | オリーブ牛をはじめとした肉用牛の生産拡大支援           | H28 ~ R2 | 畜産 | <p>全国的な肉用牛の供給不足のため子牛価格が高騰し、増頭が求められている。さらに、香川県のブランド牛であるオリーブ牛の知名度向上に伴い増頭が求められている。しかし、高齢化や労働不足などから生産基盤の強化が進んでいない。このことから、オリーブ牛を生産するために、生産基盤となる肉用牛繁殖牛の繁殖成績向上対策等により、県内肉用牛の生産基盤の強化が緊急の課題である。</p> <p>そこで、オリーブ牛生産のもととなる黒毛和種繁殖雌牛の発育及び栄養度を測定し、飼養管理状況を把握するとともに、関係機関と連携して繁殖性改善に向けた取組を行うことにより、肉用牛の増頭を目指す。</p> <p>目標：オリーブ牛生産効率の向上</p> <p>(令和2年度計画)<br/>1. 子牛生産性のベンチマーク化<br/>2. 生産者へのデータの提示<br/>3. スマート畜産の実証</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>畜産課</li> <li>畜産試験場(技術指導)普及センター(現地調整、繁殖記録整理、管理技術指導)</li> <li>家畜保健衛生所(衛生管理、繁殖技術の指導)</li> <li>JA(登録、営農指導)</li> <li>農業革新支援専門員(関係機関連携、技術指導の総括、施策提言)</li> </ul> |                           |

|     |    |   |          |    |   |  |                           |
|-----|----|---|----------|----|---|--|---------------------------|
| 愛媛県 | 32 | 魅力ある花産地づくり                                      | R1 ~ R3  | 花き | 新規栽培者の確保・育成や、苗を確保するための母樹園を設置して、栽培面積の拡大を図る。また、生産から販売戦略までのマネジメントを関係機関が一体となって推進することにより、東予一円に広がる花木産地のブランド化を図る。  | 新居浜市、西条市、四国中央市<br>JA新居浜市、JA西条市、JA周桑、JAうま、JA東予園芸<br>農林水産研究所   | (県)新花材ピットスボラム等生産力強化事業     |
| 愛媛県 | 33 | 花木の周年供給体制の育成                                    | R1 ~ R3  | 花き | ○管内では、耕作放棄地の拡大を防ぐため、露地栽培で比較的栽培が容易であり、長期間収穫可能な花木「ビワけム・テハス」及び「ヒットホム」の生産を推進しており、栽培技術の確立・普及と合わせて、出荷・販売体制の構築が求められている。<br>○大苗生産、整枝技術、鮮度保持技術等の実証・普及、流通方法の検討、需要拡大と販促活動、販売体制の構築に取り組み、産地化を推進する。                                       | JAおちいまはり<br>今治市<br>農林水産研究所<br>全農えひめ<br>(株)大田花き               | (県)新花材ピットスボラム等生産力強化事業     |
| 愛媛県 | 34 | やまのいもの省力高品質多収栽培技術の普及とブランド化による産地の拡大              | H30 ~ R2 | 野菜 | ○マルチ栽培により省力化及び高品質安定生産技術を確立する。<br>○栽培マニュアルやパンフレット等による啓発活動を行うとともに、セミナー等を実施することで、新規栽培者の確保と栽培面積の拡大を図る。また、大量増殖法を用いて、早期にやまじ玉への品種更新を図る。<br>○愛媛ブランドを取得し、贈答用やまのいもの販売促進活動や消費者との交流、加工開発等により、ブランド力の向上と販路の拡大を図る。                         | 四国中央市<br>JAうま<br>藤田青果株式会社等<br>(やまじ玉生産振興協議会を組織して推進)           | (県)やまじ玉産地強化事業             |
| 愛媛県 | 35 | 新たなオリーブ産地の育成                                    | R1 ~ R3  | 果樹 | ○栽培技術の実証を行い指導マニュアルを作成、新規生産者を確保等を行い生産拡大を図るとともに、新たな加工品開発や加工品の消費拡大を推進して、県内初のオリーブ産地を育成し、地域活性化につなげる。   | 今治市<br>JAおちいまはり<br>農林水産研究所<br>産業技術研究所                        | (県)しまなみ産オリーブ特産化促進事業       |
| 愛媛県 | 36 | アジア野菜の新たな産地の育成                                  | R1 ~ R3  | 野菜 | 収益性が高く市場での優位性も期待できるパクチーの生産販売体制の整備と産地化を図るため、関係機関による産地づくり戦略会議の開催、生産安定のための栽培管理の実証、パクチーのPRを行う。  | 東温市役所<br>JAえひめ中央<br>県産業技術研究所<br>生産者代表<br>マーケティングプランナー等       | (県)東温パクチー産地づくり事業          |
| 愛媛県 | 37 | 伊予柑の超省力栽培技術の普及                                  | R1 ~ R3  | 果樹 | 伊予柑栽培の超省力化技術を確立し、「果樹産地の体質強化」と「儲かる柑橘経営」を目指す。   | 松山市・東温市・JA松山市・JAえひめ中央、農産園芸課、果樹研究センター、中予局農村整備課                | (県)伊予柑を中心とした柑橘産地復旧モデル確立事業 |
| 愛媛県 | 38 | 高冷地の気象条件を活かした高原野菜等産地の再興                         | R1 ~ R3  | 野菜 | 漬物向け野菜の品種選定、高齢者向けの栽培体系の確立、既存漬物のブラッシュアップ、新商品開発の支援を行う。  | 久万高原町<br>道の駅<br>JA松山市<br>漬物製造業者                              | (県)久万高原の漬物向け野菜産地再興事業      |
| 愛媛県 | 39 | 栗の省力・多収技術の導入による産地力の向上                           | H30 ~ R2 | 果樹 | 地域の特産品である中山栗の生産量を確保するため、大玉で高品質な栗生産を目指したモデル園を設置し、収量が高く長期に渡り中山栗産地を維持できる産地づくりを推進し、産地力向上に繋げる。   | 伊予市<br>JAえひめ中央<br>JAえひめ中央栗部会<br>県果樹研究センター                    | (県)中山栗産地力向上促進事業           |
| 愛媛県 | 40 | 加工用果樹産地の育成                                      | R1 ~ R3  | 果樹 | 安定した原料供給を通じて(株)源吉兆産とこれまで以上に連携を深めるとともに、栽培品種の複数化等による農家の経営改善、加工用品だけでなく生食品の販売戦略検討による宇和島ブランドの創造を図る。<br>1 「吉兆産ファクトリーブランド促進協議会」の設立<br>2 高級菓子用くだもの生産コスト低減・高収量安定生産技術の開発と推進<br>3 高級菓子用くだもの育成及び開発<br>4 地域農産物のグローバル販売戦略の検討<br>5 新たな用途開発 | 宇和島市<br>松野町<br>鬼北町<br>JAえひめ南<br>(株)源吉兆産                      | (県)高級菓子用くだもの育成・ブランド開発事業   |
| 愛媛県 | 41 | 新たな果樹産地づくりの推進<br>うち<br>(アボカドの新たな産地化す新事業)        | R1 ~ R3  | 果樹 | ○アボカドの産地化を図るため、「アボカド産地化連携会議」を開催し、事業計画等について協議する。<br>○栽培技術の確立を図るため、実証園を設置し、調査結果を基に栽培指針を作成する。<br>○新規栽培者の掘り起こしや情報発信を行うため、セミナーの開催や県内外へのプロモーション活動を行う。   | 愛南町<br>NPO法人<br>愛南地区青年農業者協議会<br>南宇和高等学校                      | (県)新たな果樹産地づくり推進事業         |
| 愛媛県 | 42 | 新たな果樹産地づくりの推進<br>うち<br>(うめの里産地再興支援事業)           | R1 ~ R3  | 果樹 | 生産者の収益低下により衰退しているうめ産地の再興のため、<br>○完熟果実の規格外品を有効活用した商品開発と販路開拓<br>○収量アップを目指した栽培技術の普及(剪定技術の改善など)<br>○新規出荷農家の育成に取り組む。   | 松野町梅振興会<br>(株)松野町農林公社<br>松野町                                 | (県)新たな果樹産地づくり推進事業         |
| 愛媛県 | 43 | 新たな果樹産地づくりの推進<br>うち<br>(フィンガーライム産地づくり推進事業)      | R1 ~ R3  | 果樹 | 全国的な産地がなく希少なフィンガーライムについて新たな愛媛ブランドの産地化につなげる。   | 県(ブランド戦略課、農産園芸課、果樹研究センター、みかん研究所、支局地域農業育成室・産地戦略推進室)           | (県)新たな果樹産地づくり推進事業         |
| 愛媛県 | 44 | 新たな果樹産地づくりの推進<br>うち<br>(地域特産「川田温州」の高品質連年安定生産事業) | R1 ~ R3  | 果樹 | 糖度が高く、高単価が期待できる川田温州の連年安定生産技術を確立・普及し、産地の育成を図る。   | JAIしうわ<br>八幡浜市<br>県(農産園芸課、果樹研究センター、みかん研究所、支局地域農業育成室・産地戦略推進室) | (県)新たな果樹産地づくり推進事業         |
| 愛媛県 | 45 | さといも産地の育成                                       | H30 ~ R2 | 野菜 | ○水稲農家へさといも生産を推進し、生産技術の向上を図る。<br>○さといも生産に係る作業受託組織を育成し作用の機械化体系と省力化を図る。<br>優良種芋生産技術の確立と種芋配布に係る品質等ガイドラインを作成する。  | 宇和島市、鬼北町、松野町<br>JAえひめ南<br>農林水産研究所                            | (県)宇和島園城水田利用さといも生産振興事業    |

|     |    |                           |          |              |   |  |   |
|-----|----|---------------------------|----------|--------------|---|--|---|
| 愛媛県 | 46 | レモンの振興とブランド力アップ           | R2 ~ R4  | 果樹           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○国産レモンの産期にある夏季レモンは実需者からの引き合いは強いが、地域での取組みがない。</li> <li>○施設を利用した夏季レモン栽培体系の確立と生産・販売推進を図る。</li> </ul>  | 今治市<br>上島町<br>JAおちいまばり   | (県)しまなみ産<br>夏季レモン栽培体<br>系確立事業   |
| 愛媛県 | 47 | 醸造用ぶどう産地の育成               | R2 ~ R4  | 果樹           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワイン醸造施設の完成により、原料果実の確保が現在の栽培面積では困難。</li> <li>○栽培管理技術の確立、醸造に適した原料果実の安定供給体制の構築、ワイン等加工品の認知度向上により、醸造用ぶどう産地の育成を目指す。</li> </ul>  | 今治市<br>NPOしまなみ7イブド・スピ<br>リット<br>勝大三島みんなのワイナリー  | (県)醸造用ぶどう<br>生産力強化事業  |
| 愛媛県 | 48 | 豪雨災害からのかんきつ産地復興支援         | R2 ~ R2  | 果樹           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成30年7月豪雨災害により農地や樹体被害、農業基盤施設等の被害を受け、産地復興が課題。</li> <li>○根域制限栽培・マドリ栽培・新品種導入による高品質生産、代替農地確保のための農地流動化システムの構築により豪雨災害からの産地復興を目指す。</li> </ul>  | 宇和島市<br>JAえひめ南<br>みかん研究所   | (県)紅プリンセス<br>産地化促進事業費   |
| 愛媛県 | 49 | 未来型かんきつ生産に向けたスマート営農体系の確立  | R1 ~ R2  | 果樹           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○柑橘産地帯は、急傾斜地であるため機械化が進みにくく、作業は重労働で農家の勘に頼ることが多い。</li> <li>○栽培管理の見える化、運搬作業の負担軽減、選果作業の省力化、圃地環境モニタリング力など、生産から出荷までのスマート営農体系の確立を図る。</li> </ul>   | 八幡浜市<br>伊方町<br>JAIにしよう<br>果樹研究センター<br>みかん研究所   | (国)スマート農<br>業加速化実証プロ<br>ジェクト  |
| 高知県 | 50 | 新たな水稲奨励品種「よさ恋美人」のブランド化    | R2 ~ R5  | 稲作           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○本県の主食用米の1等米比率は夏期の気象条件により平成18年以降20%以下となっており、従来品種での品質の向上は困難と考えられている。</li> <li>○品質の改善を目標として育成され、平成29年度に奨励品種となった「よさ恋美人」は白米熟粒の発生が少ないだけでなく、極早生の作型で極良食味かつ、高収量性を兼ね備えており、高知県産米のリーディングブランド化を図るうえで、中心的な品種になると期待されている。</li> <li>○今後この品種の特性を確実に発揮された生産者が普及するよう、「よさ恋美人研究会」により、農業技術センターの研究や実証ほの調査結果、現地検討会の実施等により、早期に生産者と情報を共有し、早進、高品質・良食味生産を実現する栽培技術の普及をめざす。</li> </ul>                                | ○各農業振興センター及びJ<br>Aと連携し、早進、高品質、良食味生産に向け取り組む。また、県試験研究機関の試験結果等について、「よさ恋美人研究会」により、先進農業者と情報共有し、早進、高品質、良食味生産を推進する。 | (県)県産米高品質<br>生産推進事業   |
| 高知県 | 51 | Next次世代型施設園芸の普及           | R2 ~ R5  | 野菜<br>スマート農業 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の現状と課題<br/>高知県内の販売農家戸数、施設面積は減少傾向が続く、将来的な担い手の確保、園芸品の生産量・産出額の維持が課題となっている。</li> <li>○目標を達成するための活動方法<br/>・環境制御技術普及推進員(普及指導員5名、JA営農指導員10名)を配置し、環境制御技術の普及と事業活用の推進、機器導入後のフォローが可能な体制を整備する。<br/>・環境制御機器等とデジタル技術を融合させた「IoT技術(Next次世代型施設園芸)」を県域で展開し、各種データを共有することで生産性を高める。<br/>・若手農家、先進農家のほ場を農家間の「学び教えあう場」として活用し、現地での実証と検討を行い、より高度な環境制御技術の早期普及を図る。<br/>・令和5年度における主要7品目の生産量11万tを目標とする。</li> </ul>  | ○JA、先進農家、農業振興センター普及課・所、農業技術センター<br>○JA等関係機関と連携し、主要品目における課題と推進方針の共有、技術導入のための体制整備、機器設置支援およびデータ活用の方法を検討する。      | (国)ネクスト次<br>世代型施設園芸農<br>業推進事業<br>(県)園芸戦略推<br>進事業<br>(国)産地生産基<br>盤パワープアップ事<br>業<br>(県)環境制御技<br>術高度化事業                            |
| 高知県 | 52 | 省力的病害虫管理技術の開発と普及          | R2 ~ R5  | 持続可能な農業      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設栽培のけいねい(黄化えそ病)に対し、天敵を中心とした防除技術が確立されつつあるが生産現場への導入率は低い。</li> <li>○ナシ、ビワ類など、天敵を中心とした害虫防除技術は普及しているが、病害防除は薬剤散布が主であり、省力化ができていない。</li> <li>○施設栽培におけるIPM技術の普及を図るとともに、ナシ、ネギなどを対象に常温煙霧機による省力的な病害防除対策を推進する。</li> </ul>   | ○JA、先進農業者、農業振興センター普及課・所、農業技術センター<br>○機器販売業者と連携し常温煙霧機の現地実証を行うとともに、農業メーカーの協力により登録農薬の拡大を推進する。                   | (国)消費安全対策<br>交付金<br>(県)持続的農業推<br>進事業  |
| 高知県 | 53 | 高知県版ガイドライン準拠GAPの推進        | H30 ~ R2 | 生産工程管理       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○GAPへの対応が求められる背景をうけて、生産工程管理による農業現場のリスク管理や省力化・効率化を産地の維持・発展につなげるため、これまで取り組んで来た基礎GAPから「高知県版ガイドライン準拠GAP」や認証GAPなど農林水産省ガイドライン以上の内容のGAPへの取り組みをすすめる。</li> <li>○県内全産地で「ガイドライン準拠以上のGAP」を実践することを目標に、生産現場での意識・知識の向上に取り組み、各産地での実践農家指導に対する支援を行う。</li> </ul>  | ○各農業振興センター普及課・所、JA(各地域での生産部会及び実践農家の指導)<br>○外部GAP指導員(指導方向上に向けた研修講師)   | (国)農業生産工程<br>管理推進事業交付<br>金<br>(国)持続的産地強<br>化対策事業GAP取<br>組・認証拡大推進<br>交付金<br>(国)国際水準GAP<br>普及推進交付金<br>(県)農業生産工程<br>管理推進事業費補<br>助金 |
| 高知県 | 54 | 担い手の経営発展支援                | R2 ~ R5  | 就農、経営        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○産地の維持、担い手の確保対策として、新規就農者の早期経営安定、後継者への経営継承、法人化や規模拡大など、対象のニーズに応じた経営発展支援が必要である。</li> <li>○対象農家の経営目標の設定、個別ヒアリング、コンサルの実施などにより、対象に応じた支援を行うことで経営発展できる農業者を育成する。</li> </ul> <p>経営が改善された農家戸数：200戸(累計)</p>  | ○市町村、JA、各農業振興センター普及課・所等との支援チーム体制を構築  | (県)経営発展支<br>援事業<br>(国)農業次世代<br>人材投資事業   |
| 高知県 | 55 | 6次産業化のすそ野を広げる取り組みとステップアップ | H30 ~ R2 | 6次産業化        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○高知県では6次産業化に取り組む農業者等のすそ野を広げるとともに、農産物を活用した商品開発や販路開拓等への総合的な支援により、農業者等の所得の向上や農村地域の活性化を図ることを目的として取り組みを進めている。</li> <li>○地域内流通から県域流通をめざす事業者を対象に専門家のアドバイスを受けながら、普及職員により支援を行う取り組みを6次産業化支援チームとして県内20チームを立ちあげる。20の事業者に対し、商品やパッケージデザインの改良、商品規格書の作成、販路先とのマッチング、事業計画作成などへのアドバイスを行う。さらに、6次産業化セミナー実践コースでは、商品のブラッシュアップへの支援を行い、販売力を強化した商品づくりをアドバイザーの支援により行う。</li> <li>○R2目標：量販店等での販売開始 事業者 3→4</li> </ul> | ○JA、市町村等には、支援チームの取組に対する補助事業等の活用についての情報提供及び実践活動への支援。<br>○県工業技術センター食品開発課には、加工品製造に係る技術面での相談を依頼。                 | (県)6次産業化普<br>及活動推進事業<br>(県)6次産業化人<br>材育成事業  |

|     |    |                     |         |                 |  |  |              |
|-----|----|---------------------|---------|-----------------|--|--|--------------|
| 高知県 | 56 | 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築 | R2 ~ R5 | 高知県が定める分野「集落営農」 | <p>○高知県では、農業の担い手の高齢化・減少を受け、地域の農業・農村の維持と発展の仕組みづくりとして集落営農を推進し、成果が上がってきている。R2年度からは、その裾野の拡大と、集落営農組織のステップアップ・法人化、組織間連携による地域農業戦略を推進する。</p> <p>○「地域営農支援事業」により、農業革新支援専門員と、市町村・農業振興センターが連携し、集落営農組織の育成及び生産基盤の確立・活動の促進をソフト・ハード両面から支援していく。</p> | <p>○関係市町村・JAと連携し、対象地域の啓発・各種研修会の実施を行う。</p> <p>○市町村が行う集落営農組織への施設・機械の導入支援や、組織への各種研修会等を支援し、組織の活動強化を図る。</p> | (県) 地域営農支援事業 |
|-----|----|---------------------|---------|-----------------|--|--|--------------|